WLAC
World Liberal Arts Center

第６号

WLAC REPORT 2022

World Liberal Arts Center Report

名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター長
亀　山　郁　夫（学長）

巻　頭　言

ここに名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンターの活動報告書「WLAC REPORT 2022」をお届けします。

2015 年に発足した本センターは , 日本を含む世界のさまざまな地域の言語、文化、芸術、教育、社会、政治等に関わる問題系を掘り起こし、21 世紀の現代に真にふさわしい教養教育の理念構築に寄与することを目的としております。例年、本レポートでは、多くのイベントやシンポジウムを紹介してきましたが、昨年にひきつづき、今年もまた、新型コロナウィルス禍のあおりを一定程度受けました。しかし、嬉しいことには、企画の数、内容ともに前年度を上回る成果を得ることができたと確信しております。特筆すべき企画として挙げられるのが、特別写真展「リフカの手紙」および関連シンポジウム「ウッチから考えるホロコースト」（4 ～ 6 月）です。

他方、名駅サテライトキャンパスの活性化をも狙いとしつつ、昨年度スタートしたイベント「WlacTALK」（7 月）では、初めて主に愛知県内の高校生を招き、前回以上に充実した内容で地域の教育に大きく貢献することができました。また、グローバルヒストリーをめぐる羽田正氏の講演会も大きな知的刺激に満ちたものでした。本センターの研究紀要である雑誌「Artes MUNDI（アルテス・ムンディ）」第 8 号も無事刊行され、次年度に向けてよりいっそう知的発信を強化したいと念じているところです。

最後に、各イベントの開催にご尽力くださいました方々、また、ご参加くださった皆様に心より御礼申し上げます。これからも地域を超えて皆さまの温かいご協力ご支援を賜れましたら幸いです。

2023 年 3 月

2022 年度　活動一覧

シンポジウム 2022 年 5 月 26 日（木）

「翻訳（ひるがえって やくす）英語圏文学とロシア文学の翻訳者が語る」

金原 瑞人（法政大学教授・翻訳家）
亀山 郁夫（名古屋外国語大学長）

大学出版部協会・名古屋外国語大学出版会・WLAC 共催

シンポジウム 2022 年 5 月 28 日（土）

「ウクライナ戦争を考える：世界や日本はどう向き合うべきか」

黒岩 幸子（岩手県立大学・特命教授）
岩下 明裕（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授）
地田 徹朗（名古屋外国語大学世界共生学部・准教授）
大茂 矢由佳（筑波大学大学院人文社会科学研究群博士後期課程）

北海道大学 / スラブ・ユーラシア研究センター 境界研究ユニット（UBRJ）
名古屋外国語大学世界共生学部世界共生学科・WLAC
人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「東ユーラシア研究」/
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点（EES-SRC）
NPO 法人国境地域研究センター（JCBS）共催

講演会 2022 年 6 月 7 日（火）

「コロナ禍のコミュニケーション～今こそ雑談を～」

庄野 俊哉（東海テレビアナウンサー）

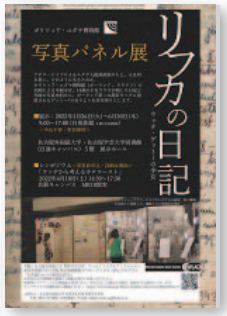
WLAC 主催、中日新聞社 後援

写真パネル展 2022 年 4 月 26 日（火）～ 6 月 30 日（木）

「リフカの日記 —— ウッチ・ゲットーの少女」

東京外国語大学大学院 博士前期課程 ダブル・ディグリー修士プログラム「公共圏における歴史（HIPS）」

名古屋外国語大学世界共生学部・WLAC 共催



シンポジウム 2022 年 6 月 18 日（土）

「ウッチから考えるホロコースト —— 歴史・抵抗・表象」

福元 健之（福岡大学講師）、加藤 有子（名古屋外国語大学准教授）
西村 木綿（名古屋外国語大学講師）

名古屋外国語大学世界共生学部・WLAC 共催

コンサート 2022 年 6 月 22 日（水）

「Fête de la musique」

外国語学部フランス語学科 主催
WLAC 後援

シンポジウム 2022 年 6 月 27 日（月）

「世界の亀裂」

石田 秀敬（東京大学名誉教授、東京大学大学院言語情報科学専攻教授、
同情報学環長・学際情報学府長、パリ大学客員教授）
亀山 郁夫（名古屋外国語大学長）

WLAC 主催

講演会 2022 年 7 月 8 日（金）

「想像する力と物語る力」

丸山 昇一（脚本家）

名古屋外国語大学現代国際学部、世界教養学部、WLAC 共催

フォーラム 2022 年 7 月 16 日（土）

「WlacTALK Forum」

矢代 朝子（俳優）
Lucy Glasspool（名古屋外国語大学現代英語学科准教授）、鶴本 花織（名古屋外国語大学国際教養学科准教授）
亀山 郁夫（名古屋外国語大学長）

WLAC 主催

ワークショップ　講演会　2022 年 8 月 8 日（月）、2022 年 8 月 19 日（金）

The Mothers Karamazov

Vladimir ZAKHAROV（Russia, Ex-president IDS）、Kodai MACHIDA（Waseda University）
Naohito SAISU（Nagoya University of Foreign Studies）、Carol APOLLONIO（Duke Univdersity, President IDS）
Tetsuo MOCHIZUKI（Chuo-Gakuin University）、Go KOSHINO（Keio University）
Ikuo KAMEYAMA（Nagoya University of Foreign Studies）、Masako UMEGAKI（Nagoya University of Foreign Studies）

日本ドストエフスキー協会・WLAC 共催

講演会　2022 年 10 月 21 日（金）

「現代を理解するためのグローバルヒストリー」

羽田 正（東京大学 カレッジ長）

現代国際学部、世界教養学部、WLAC 共催

講演会　2022 年 10 月 25 日（火）

「韓国文学の中心にあるもの」

斎藤 真理子（韓国文学翻訳者）

言語教育開発センター、WLAC 共催

トークイベント　2022 年 11 月 14 日（月）、11 月 18 日（金）

フランスウィーク 2022

ミュリエル・バルベリ（フランス人小説家）、平野 啓一郎（小説家）、モナ・ショレ（ジャーナリスト・作家）、松尾 亜紀子（編集者）

フランス語学科、WLAC 共催
アリアンスフランセーズ愛知フランス協会 後援

講演会　2022 年 11 月 30 日（水）

「翻訳と「外国語」教育ー英詩研究者の視点」

桂山 康司（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

英米語学科、WLAC 共催

コンサート　2022 年 11 月 30 日（水）

「WINTER CONCERT : IMPERF」

WLAC 主催

教職講演会　2023 年 1 月 19 日（木）

「笑いは世界を変える」

大棟 耕介（有限会社プレジャー企画 代表取締役、NPO 法人 日本ホスピタル・クラウン協会 理事長）

名古屋外国語大学教職センター・WLAC 共催
名古屋学芸大学教職センター 後援

国際ワークショップ　2023 年 2 月 21 日（火）

「ドストエフスキー人間論の原理」

ウラジーミル・ザハーロフ（国際ドストエフスキー協会元会長）

日本ドストエフスキー協会・WLAC 共催

シンポジウム　2023 年 3 月 27 日（月）

「モダン文化の〈場所〉――松坂屋、地方映画館、名古屋の洋楽」

山上 揚平（東京大学特任講師）、小島 広之（東京大学博士課程）、白井 史人（名古屋外国語大学准教授）、
毛利 眞人（音楽評論家）、七條 めぐみ（愛知県立芸術大学講師）、柴田 康太郎（日本学術振興会特別研究員 PD）、
紙屋 牧子（武蔵野美術大学非常勤講師）、岡田 秀則（国立映画アーカイブ 展示・資料室主任研究員）

世界教養学科・早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点・WLAC 共催
名古屋学芸大学教職センター 後援

フォーラム　2023 年 3 月 18 日（土）

「WlacTALK Forum〈地球に触（ふ）れる〉」

亀山 郁夫（名古屋外国語大学長）、梅垣 昌子（名古屋外国語大学副学長）、エリス 俊子（世界教養学国際日本学科教授）
ハンフリー 恵子（外国語学部英米語学科教授）、ムーディ 美穂（現代国際学部現代英語学科教授）
城月 雅大（現代国際学部 国際教養学科准教授）、木内 尭（外国語学部 フランス語学科准教授）

WLAC 主催

TOPICS

フランスウイーク2022

11月14日「京都を愛するさまざまな方法について」

ミュリエル・バルベリ＋平野啓一郎　対談イベント

本年度はフランス政府が文化人の派遣を再開し、フランスウイークの日仏作家招聘イベントを２年ぶりに対面で行うことができた。

イベントの一週間ほど前に刊行された『京都に咲く一輪の薔薇』（早川書房）の翻訳出版を記念し、フランスの作家ミュリエル・バルベリ氏が来日した。対話の相手は、この本の帯に推薦文を書き、京都とも縁の深い平野啓一郎氏であった。

対談イベントはそれぞれの作家の自己紹介から、京都との関わりを中心にお互いの意見が交わされ、時に文学論に至るまで、誰もが聴き入る内容であった。学生とともに、教職員、一般の聴衆が会場となった名駅キャンパスWLALiを十分な距離をもって埋め尽くし、また同時に来場できない聴衆にはインターネットでも中継されていた。

バリベリ氏は来日以前から日本に強い興味を持ちフランスでベストセラーとなった『優雅なハリネズミ』（早川書房）にも日本人を登場させていたが、それは全て想像で描いていたに過ぎなかったと語った。小説家としてデビューした後、ヴィラ九条山（フランス政府のアーティストインレジデンス）に滞在した2年間、彼女は毎日京都の街を歩き回ってリサーチしたという。彼女にとって京都の魅力は日常の中に永遠が存在する点にあり、フランスと違い四季を通じて花が咲き、有機的な素材による人間的なスケールの建築物があるところで、とりわけその本質は京都を流れる鴨川に象徴されているのではないか結論していた。

平野氏はフランスのパリに１年間滞在した経験を持ち、またそれ以前は京都に学生として５年また職業小説家として５年の計10年間滞在した経験があることから、実生活者としての京都論を展開した。京都は立場ごと地区ごとに住人に棲み分けられていること、まさに鴨川には地域ごとに異なる表情を持ち、京都の複雑さを象徴していること。また京都の悠久の歴史意識は、彼が『日蝕』や『葬送』というフランスを舞台にした小説を腰を落ち着けて書く際にも生かされていたことなどが語られた。平野氏は京都も好きだがパリも好きだと語り、結婚前に一人で1年間滞在したパリの魅力の弁護もし、聴衆の旅への思いを掻き立てた。

なお11月18日（金）に予定されていたイベントに招聘されていた『魔女：女たちの不屈の力』（国書刊行会）の著者、ジャーナリスト・作家のモナ・ショレ氏が家族の緊急事態で帰国せざるを得なかったのは残念である。イベントはやむをえず中止されたが、フェミニズム関係の映画がフランスウイークの期間中参考上映されていた。

（文責　伊藤 達也）

教職講演会
「笑いは世界を変える」

2023年1月19日、世界中の病院や学校、保育園などの子どもたちに笑いを届けてきた、大棟耕介氏の講演があった。拍手の音、笑い声が絶えず起こり、にぎやかな雰囲気の中で講演は進んだ。名古屋外国語大学、名古屋学芸大学の学生、教職員約50名が、話に引き込まれた。人間に、特に子どもたちに、良質の笑いがどれほど必要とされているかを考えさせる話であり、生きることの意味の問い直しにもつながる深みもあった。アンケートでは、全員が講演内容に高い評価をした。

ピエロとクラウンの違いについて、聴衆の勘違いを正した後、外国におけるクラウンの地位の高さ、クラウンとして人々に対する時の立ち位置などから話が始まった。いわゆる講義ではない。矢継ぎ早に言葉が飛び出てくる一方で、絶えず身体が動いている。密度の高い話の合間に、つぎつぎにバルーンアートが作りあげられていく。真面目な話と思って聴いていると、急に笑いに引き込まれる瞬間もあり、その芸の確かさ、巧みさに感嘆させられる。

ホスピタルクラウンを無償でやっているという。経験からよく分かる。小児病棟の子どもたちは滅多に笑わない。自由に動けない辛さ、身体的な苦しさゆえ大人びている。大人に放っておかれる子どももいれば、母親から笑いを奪ってしまったことに罪悪感を持っている子どももいる。子どもたちに限らない。病棟では、看護師も医師も滅多に笑わない。その笑いのない世界に、大棟氏がクラウンKとして入っていくと、子どもたちの表情が一変する。諦めたような表情が子どもらしい笑顔に変わる。母親の方が先に笑い転げることもあり、子どもたちは、大人たちの笑顔にほっとして笑う。医師は語る。「これは治療ではない。生きる力を呼びおこすものである」と。

世界が変わるのは、日本だけではない。今紛争が起きている地域に訪れたこともあるという。クラウンの技術は、相手に気持ちよく話させる、相手の気持ちを変えるという点で、コーチングのそれと似ているという話があった。クラウンは、主役ではなく最高のワキである。外面が先、内面は後という話もあった。笑うから楽しい、そして、笑いは伝播する。笑いは、人々の生きる灯火となることを確認する90分であった。

最後に学生が座右の銘を訊いた。「今を生きる」。精一杯今を生きてきた人の姿がそこにあった。

（名古屋外国語大学　教職センター教授　村上 慎一）

TOPICS

WlacTALK フォーラム
「高校生に開く大学の学び」

2022 年 7 月 16 日の土曜日、名古屋外国語大学名駅キャンパスの多目的ラボは、元気な高校生の声であふれていた。高校生に大学の学びを体験してもらおうと立ち上げた WlacTALK フォーラム第 1 回である。近隣地区の高校に声をかけたところ、43 名の高校生が集まり、校長先生や教頭先生、教科担当の先生のお姿もあった。

午前の部は、Biblio Talk と称して、文学との出会いの時間。日本語の短い詩を 2 篇、と現代文学の短編を取り上げ、裸の心で文学の言葉と向き合う体験をしてもらった。俳優の矢代朝子さんをお招きして朗読をお願いし、まず耳で文学の言葉にふれ、次いで、作品をどこまで読み込めるか、そこに何を感じ、何を見るか、どんな音が響き、どんな声が聞こえてくるか、グループに分かれてディスカッション・発表という形式で進めた。初めて出会う詩や短編作品を前に、高校生が真剣に、活発にディスカッションに取り組み、驚くべきオリジナルな解釈を次々と提示してくれて、高校生たちの新鮮な読みに、こちらが目から鱗の瞬間の連続だった。

昼食時には名駅の図書室 WLALi にてピアノ演奏を聴きながらお弁当を楽しみ、午後はルーシー・グラスプール先生による現代日本のポップカルチャーについての英語の講義。鶴本花織先生の通訳を介して、ディスカッションを交え、現代日本社会の魅力についてのチャーミングな講義に、高校生は目を輝かせて耳を傾けていた。

1 日のイベントの最後を締め括ったのは、亀山学長による「教養の森へ」の講演である。「教養」とは、個別の知識を並べ立てるものではなく、自分が感動を受けた経験を他者と「共有」できるような、知識の広さと深さを持つこと、そして、それを可能にしてくれるのが文学や音楽であって、様々な芸術との出会いが私たちの生を豊かにし、人と人とをつなぎ、限りない出会いをもたらしてくれることを、高校生に寄り添う言葉で熱く語られた。短い時間の中で音楽を共有する体験も織り込まれて、いきいきと語られた学長のお話に、高校生の反応も熱く、学長の問いかけに対して次々と手が挙がった。

盛り沢山のプログラムだったが、高校生は疲れを見せる気配もなく、最後まで楽しそうに参加し、懇親会でも積極的な発言がつづいた。大学での学びの面白さの一端を知ってもらえたならば幸いである。第 2 回 WlacTALK フォーラムも計画中である。今後も継続し、高校教育と大学との建設的な連携の一助になればと願っている。

（ワールドリベラルアーツセンター副センター長　エリス 俊子）

World Liberal Arts Center WLAC

名古屋外国語大学オープンカレッジ

公開講座

2023年度春期

名駅サテライトキャンパス内　WLALi（ヴラリ）図書室

申込期間 2023年3月8日(水)－3月29日(水)

開講期間 2023年4月12日(水)－7月28日(金)

申込受付 2023年 3/29(水) まで

■ 講座一覧

教養講座

番号	科目名	担当者	開講曜限	回数	受講料（税込み）
C1	日本人が知っておくべき仏教の思想―それが日本の哲学だ！	湯谷 祐三	月曜６限	12 回	16,500 円
C2	イタリア・ルネサンス　西洋美術の青春時代	桑原 恒和	月曜６限	12 回	16,500 円
C3	外から日本語の文法を見ると？―日本語教育文法―	坂本 正	月曜６限	12 回	16,500 円
C4	Introduction to British Culture	ニコラス・ブラドリー	月曜６限	12 回	16,500 円
C5	フランス哲学：知識の哲学（エピステモロジー）入門	上西 晃生	火曜６限	12 回	16,500 円
C6	ネム船長の哲学塾―「みんなちがってみんないい」で本当にいいのか？	根無 一信	水曜５限	12 回	16,500 円
C7	公益通訳翻訳	ヤコブ・マルシャレンコ	水曜６限	12 回	16,500 円
C8	ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』の謎	亀山 郁夫	水曜６限	4 回	5,500 円
C9	フランス音楽の夕べ ～レクチャー＆コンサート～	大岩 昌子	木曜６限	3 回	4,200 円
C10	生命科学と倫理	北川 章	金曜６限	12 回	16,500 円
C11	日中映画史―日本で観られる中国映画のスター（男優編）	楊 紅雲	金曜６限	12 回	16,500 円
C12	ブラジルから見える世界の歴史	鈴木 茂	土曜２限	4 回	5,500 円

言語講座

番号	科目名	担当者	開講曜限	回数	受講料（税込み）
L1	中国語入門 A-1	蟹江 静夫	月曜６限	12 回	16,500 円
L2	ロシア語入門１	イーホル・ダツェンコ	月曜６限	12 回	16,500 円
L3	ブラジル・ポルトガル語（初級）	ジアス・ハダマ・パトリシア	月曜６限	12 回	16,500 円
L4	始めたばかりのイタリア語（初級）　ゆっくりと初歩のイタリア語	アナスタージャ・ブンドック	火曜６限	12 回	16,500 円
L5	ドイツ語入門１	三宅 恭子	火曜６限	12 回	16,500 円
L6	フランス語入門１	パク・ジェローム	火曜６限	12 回	16,500 円
L7	洋楽で楽しく学ぶ総合英語	橋尾 晋平	火曜６限	12 回	16,500 円
L8	English Communication	ベッキー・アルプ	火曜６限	12 回	16,500 円
L9	韓国語入門１	李 惠敏	火曜６限	12 回	16,500 円
L10	Writing for Academic Purposes in English	トレバー・アストリー	水曜５限	12 回	16,500 円
L11	Global Topics in English	エリック・ヒラタ	水曜６限	12 回	16,500 円
L12	トルコ語入門１［在名古屋トルコ共和国総領事館寄付講座］	ガムゼ・ケッレ	水曜６限	12 回	16,500 円
L13	舞台版『ハリー・ポッターと呪いの子』第１部を英語で読もう	今井 康貴	木曜５限	12 回	16,500 円
L14	スワヒリ語入門１	髙村 美也子	木曜６限	12 回	16,500 円
L15	中国語入門 B-1	周 素芬	木曜６限	12 回	16,500 円
L16	Improving English Skills and Discussing the News	エティエン・マルソ	木曜６限	12 回	16,500 円
L17	インドネシア語入門１（初心者）	ウインダルティ・ユリア	金曜５限	12 回	16,500 円
L18	English Conversation Skills	パトリク・ラングリー	金曜５限	12 回	16,500 円
L19	少し学ばれた方のイタリア語（初中級）　もう一度基礎からのイタリア語	アナスタージャ・ブンドック	金曜６限	12 回	16,500 円
L20	スペイン語入門１	中川 智彦	金曜６限	12 回	16,500 円
L21	Intercultural Communication in English	ケビン・オットソン	金曜６限	12 回	16,500 円
L22	Reading Literature in English	カミーロ・ビラヌエバ	土曜１限	12 回	16,500 円
L23	ブラジル・ポルトガル語（初中級）	ジアス・ハダマ・パトリシア	土曜１限	12 回	16,500 円
L24	タイ語入門１	寺田 ダラポン	土曜２限	12 回	16,500 円
L25	様々な社会問題に関して英語でディスカッションしてみよう	柴田 直哉	土曜２限	12 回	16,500 円

*授業内容の詳細・シラバスは大学HPおよび2023年度春期オープンカレッジ・パンフレットでご確認ください。

アクセス

〒451-0051 愛知県名古屋市西区則武新町３丁目１番17号
受講者の皆様の駐車場のご用意はありません。
来校には公共交通機関をお使いください。

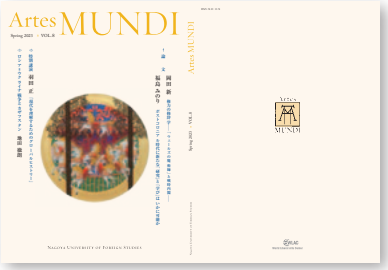
問合せ先

平日10:00～16:00
名古屋外国語大学名駅サテライトキャンパス事務室内、
オープンカレッジ事務局
TEL 052-526-3103（代表）　FAX 052-526-3104

発行冊子

Artes MUNDI（アルテス・ムンディ）

（※ Artes MUNDI（アルテス・ムンディ）とは、ラテン語で「世界の技芸（ぎげい）」のことをいいます。）



『Artes MUNDI』第８号では、東京カレッジ長羽田正さんによる「グローバルヒストリー」をめぐる講演、国際ドストエフスキー協会元会長のウラジーミル・ザハーロフさんによる国際ワークショップ基調講演を掲載することができた。本号の特色として、岡田新先生の力作論文「権力の修辞学ー《ウェールズの魔術師》と戦時内閣ー」、ウクライナ戦争の深部を穿つ地田徹朗先生の論文、韓国をベースにポストコロニアリズムと「学び」の問題を考察した福島みのり先生の論文など、社会学的かつ現代的な問題意識に貫かれた論文が並び、前号に比してより総合誌的性格を帯びるにいたったことが挙げられる。今後とも、人文、社会、学際の三領域のバランスに配慮した編集を目指したいと願っている。また、本誌の目玉の一つであるコラム（「わたしの好きな絵」）には、去年を上回る寄稿があった。最後に、本誌の刊行にあたっては、前号に引き続き、名古屋学芸大学の水谷誠孝先生に表紙のイラストをお願いし、他の学術雑誌には類のない、見事な装丁に仕上がった。記してお礼を申し上げる。また、2022 年 4 月からは、ワールドリベラルアーツセンター事務職員として福壽佳音さんを新たにお迎えすることとなった。この一年間の彼女の献身的なお仕事ぶりに心より感謝の意を表するとともに、これからのさらなる活躍を切に期待している。

【目次】

特別講演
論文
評論
コラム　「わたしの好きな絵」
エッセイ　「教師と学生を結ぶ」
書評　「作家たちの手紙」
テーマ書評　「核軍縮」
著者インタビュー

編　集　後　記

パンデミックの収束が見えてきた１年、ワールドリベラルアーツセンターの活動も一気に勢いを回復し、2022年度は久方ぶりのイベント尽くしの１年となりました。対面の講演会やシンポジウムが次々と開催され、地域住民の方をキャンパスにお招きする機会も増え、またハイフレックス方式でキャンパスでのイベントを海外とつなぐ企画や、学内でのコンサート、フランスウィーク・韓国ウィーク関連行事など、多様な企画が目白押しで、息を継ぐ間もなく季節が巡り、今、新たな春を迎えようとしています。人と人とが対面で場を同じくしてこそ豊かな経験ができることを改めて感じさせられる１年でもありました。近隣の高校生をキャンパスに招いて大学での学びを体験してもらうWlacTALKも軌道に乗りつつあります。また、オープンカレッジ公開講座も無事に春期、秋期の通常講座、冬期の短期特別講座を終え、２年目に入って、講座数も増えて参りました。さらに多くの地域の皆様が名駅キャンパスに足を運んでくださり、多様な学びの場を共有してくださることを願っております。

これまでのWLACの活動へのご支援に感謝し、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げるしだいです。

（ワールドリベラルアーツセンター副センター長　エリス　俊子）

運営者名簿

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長	亀　山　郁　夫	（学長）
副センター長	エリス　俊　子	（世界教養学部長）
運営補佐	梅　垣　昌　子	（副学長・英米語学科教授）
	伊　藤　達　也	（フランス語学科教授）
外国語学部担当幹事	甲　斐　清　高	（英米語学科教授）
	木　内　　堯	（フランス語学科准教授）
現代国際学部担当幹事	佐　藤　雄　大	（現代英語学科教授）
	鶴　本　花　織	（国際教養学科准教授）
世界共生学部担当幹事	地　田　徹　朗	（世界共生学科准教授）
世界教養学部担当幹事	白　井　史　人	（世界教養学科准教授）
	宮　本　真　有	（国際日本学科助教）

顧問

副学長	高　梨　芳　郎	
〃	佐　藤　都喜子	
〃	梅　垣　昌　子	
〃	恒　川　孝　司	（常務理事・法人事務局長・名古屋学芸大学副学長）
事務局	太　田　惠　雄	（事務局長）
	後　藤　隆　文	（庶務部長）
	福　壽　佳　音	

名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター
〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
電話：0561-74-1111（代表）　0561-75-2164（直通）
Mail：wlac_gg@nufs.ac.jp